へ 13
526
2

へ13
526
2

原新文庫

へ波10
526
2

新選沙石集　第二目録

もやうのよらい出世の事

仏菩薩のりの付日なし霊鷲山のり

つまうだの大ど御法のむしろのり

光明皇后の事

ぐうんたのやう三ざうの天竺ようろう

師子大納言のり并ろう世三人ろうまうぐうの

善女ぐの事

乞食法師ぐり并法花経くどくのり

法華経をうんせいどのやうじのり

婦のこゝろざしを伝へて名号成ぜしめ給へる人こゝ
ちぎくとなげかりて蘭生をとゝる事
ちやりん石茶毘のとゝやあるようどやくとゝる事
眼恵のびくにぐこゝやとゝる事
こうさいびくの事
石動貴験ある事
神母が牛はひられて仏寺にいる事

新撰沙石集　第二

梵回ひり中天竺摩竭提国四万八千代沙弥子頻婆娑羅の事

梵回ひり中天竺摩竭提国四万八千代沙弥子頻婆娑羅といふ人ありけり。浄飯王の子。釋迦牟尼仏の父なり。浄飯王に四人まいりけり。浄飯王の后とゞ摩耶夫人といふ。若き長者の娘なりけり。浄飯王の夢にゆめ見てこの人天竺の大象ありて胎に入りて懐妊わりけるが、胎の月うちるのうちに法花をちらりいろくに花咲敷したまひ世を去たまふ代わりてこゝにて四月八日年の時ようの

くゝ遊上の花成とゝを引けゝゝ。右の御脇よ
つゝたゝ子お脇ゝゝゝ

よいまぐ内裏とあさぐとてるうぐ門卯と足
せてめよしく和わりぷ八、法華経のせたら面門ら
あくて面門ら四つり小門ら還俗るるぐ老痛
死の三相と又くまひてくめて貧人ーさそふ
られと理のお家とうつ焼網陸ら七家しうられそる
いらのゆへせこりくうんせいのはんわりけまぐ。
新寵浄資美質わるる后乃えくとそるて左心さ
まーーさんたあよ天母嬰嫉女廉義女としぷ二人
のうや夫人と金雞障中ようんで后あるられと
てなるの白仮まの子ふ拘楽しうん人わり法義
とさしわくそぷまりるまいるけまくく

のこるるもまぐくうくくに世ろと譬しふ。
くるとつぐくさたる子るさ少人ーと家ゆるくくと
まりねしゆりりて嬰嫉女のは腸氏たのは指
くくさそそひけまぐそりら懐妊わりぷたる子
るくくくそく出家のはうくあひそまるけまた。
ゆるされぐおる河たる子車匿くうう舎人とて
金泥彩くくくと玉てひいてまいてくまるけま
新婦そくぬりぐいくくとそそそりいいはき
くりけるる子願ようはまれくわりぷんぐんはくくはく
せくく樂地とあくくくくのまるるるぐ我の
ぐ貴くさけてわり逆工ーてのりそそ半濁

洞良の道場也四門ハ番守護警固ハ[illegible]
車懸とゝ[illegible]の尾ハ[illegible]
とわげ[illegible]又根又力の筋骨諦四神[illegible]
ハ[illegible]の嘯とゝ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]十九二月十八の夜
[illegible]
[illegible]
[illegible]

しかるに如鑿年如痛ありて乳味よたくへ法重切
法林今剛憧今剛義ホのたゆ根性のかるのい沿蓋わり
きれと日ふる山とてくそてよたくつかりくこそその
なくうらく細煙の家とめいで藁幣塔賦のくこそ
と糸し藁苑よいうう又法丘のため従法しなよ
る十二年ホ京戸南やうあ後ろせりあれと酪味よ
たくくうこ前一ホの意わり雑戸大士の病席
の意ゆり仏つ〇は賞ホとつ〇ホ傍しむ内よ八へ
見れいるさ一由旬の家よ三万六千立双そうその年
よ津弟居士育して仏の法使よ旬報ちんうち小城
病野千のんと京こ二京のゆとうけどれくいひ

て僧空の義と漢呼しそ分等弟と云
即ち蘇味よたくへ法重切
稲孤獨園他化自天の戸尼寶殿仏園中の白鷺
地ホの四ケ所して十六金剛と般若弟と宣伝しく
人天大舎と法法しそ十ケ年ホれと鑿蘇
味よたくへ也四十余年法華涅槃ホ
ル年七十二ホして一實之相の寶大京と伝たくて
一切衆生山開三顕一と能しそ屋宅舎ふて
いくを寶殿の那羅と明しそ又靈山ホ説して法華の
弘通とそ立そくる番尾八ケ年也と入寶と云
て醍醐味よたくへりそ仏ホ年八十ふて横提

仏のかたら双林下にして一切諸法悉有仏性如来
常住無有変易の義と説給ふ一日一夜なり
是を涅槃と云しかるに傷のもとに拾ひ集て
二月十五日の夜涅槃に入給ふ双林四枝の間鶴
のごとく白くなりて一月百日のげ接花の浪に同
梅檀香なりつるまて舎利とてけなりつるを金棺の
舎利と云ふ四十四大の骨八十三の小骨也是を龍宮海
蔵の二百五十六の石塔に納て八分龍十二分諸天
骨八分龍十二分也天三分人八分龍十二分諸天
四十二分阿羅漢三分力士一分是を龍宮に入て舎
利と云つ八幡四枝四枝八幡宮に納て

あらいの塩骨家に入て家也骨骨いを金剛峯
寺に骨塔骨を八幡宮に納て也骨骨を
の大仏宝殿に納て也三部相応
仏基なりの事
和云業師寺の仏基なりと云ふ
代の沙汰なり伝教大師の弟子義真の二
代目の業師也和尚業師大師の大弟の那乃人也賀茂氏
賀茂氏なり建立わり金綱十六丈の盧舎那仏
と安置してそなへ
なりの孝師そなへ
のいとくもれなりの大根頭顕

と初会わかれて明日のくれまでこがれつゝ日数
を指折数雑談のうしろ書て
とそのゝ伽陀とそのゝ今へて礼拝なるゝ天人
天竺にてびさ一葉の船源に浮て天竺の聖所
門僧正恵給とて
てはこのゝ法花私こゝろ雷にこゝろ
さ美書家とそめて雑談の梅こゝろ
とはこゝろこゝわやこゝろ一時乃幸特こゝ
いれ百人の信仰解るゝ
聖門僧正乃はもとひろへて
雲山はこゝわゝ乃浮世許にこゝろ

如くこゝせでわひみつゝ那
と徐こゝそこゝへばこゝこゝん僧正
伽羅所清こゝ
文殊の陽新わひ乃こゝ那
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ東大寺こゝわりけこゝ
天竺風こゝ續紛こゝ梵音雲こゝ幽楊こゝその法
こゝはこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝ迦こゝ僧こゝ寺塔こゝこゝこゝこゝ
こゝ湖水のこゝこゝ平流山こゝこゝこゝ天竺乃
山の一部こゝこゝこゝけこゝ僧法東部の
地乃せこゝこゝこゝこゝ第こゝこゝこゝ日域こゝ紀こゝ

その地いかしてけしとてひてかひてく
今はわり毎日二度ほとひらく地石はこの色なり。
○小巖滴わり龍雲びきてそてけなり
あ地ちられいをかいちり鑑はのをれわ〜い常立
形云のはとそび鑑地のふりしろ水い若法書蓮
のをるのことひ〜〜ぞれ〜〜ぞ貫四十九ケ
ろかしん法こんつをわ〜蓮山と奥院〜て
奥山寺と名づけて説法利生わりけり四年八
音の法面いをそりは有滴巖滴とひ大益大
世ろ智恵の香いわ〜〜〜石仏のをるどや〜とを
くぬ〜〜をそれをそ場なり

龍樹大士御法の書の事
梵曰むし〜龍樹大士い竜天の地上稱号書ろ
家〜ろ出ろ面ろ天文地理一切の乃術をろ
ぞ〜といふるの奥とむそびちろぞ〜とはる
〜うをる者三人わりみる一寺の明哲のりろり
ていろく人るは生とうけて竜光紀者の命とはる
ろ〜月ていんとろ性とのみるかのそむ百ろ〜さ
ぞで鑑色とりしめ鑑衆とかい〜〜きんのを地
心神とものをむる百ろ〜〜〜〜和尚国王大臣
ゆ〜ぞ〜ぞ〜ぞ

らひて嬉遊の境とりくむべくこそられてこのそ
湖師はそもそもそその昊蕚と習ひ四人わかりく
ものの業乃湖とはてんかまくくしく常願
后文ゆゑ面へさて文中の英人侵漬をまて門見と
ふるふ懷妊せるもの紹介をもんとわやを常
ゑ奏さて生徒の紹介とめてものとをもるる新法
ーさくりもれ異神のるて面ゆ又是湖師のも
まざうまづ面への門毎ことをるる古原と至てん
ん法ゆ異神るくへ論わくくもそ術い光法
とりて法をへーゆ湖師るくばるるまを見わと
わるーか劍とりて法をへーゆくのくくもるる

もうて四人のあしーはひ附りるくくの門戸と
さ一教百人力士として力劍とふくくむゆくしくます
して三人のくびをきりゆくをりてて龍樹わくるの
を常ゆるるるくくくくしつゆるる
宮とのくきをあまるりを
面ゆるるるる源るるくくくるるるる
ひ出家して佛法るの
有之乃高見と海ゆるる佛の門澄智とるるる法徹
春の地るのるりつるるくくゆ世界ーるるくくゆ
るるるる新り易ひの乃とくくゆ力他力の理と立
て法佛周海とりるくゆくくくくくくくくくる

るゝといふものかきりあわしめつゝそう。
御ゝ[illegible]師として面天の後塔と明爲。
禪家ゝ[illegible]法として西天の祖師ゝ[illegible]
ゝ[illegible]龍猛といふ論ゝ[illegible]龍樹といふ龍樹大
士乃門事なり

光明皇后乃事

和云光明皇后ゝ[illegible]聖武天皇后妃なり帝寵
を思ひて[illegible]
の通ゝ[illegible]君子のゝ[illegible]
ゝ三かうゝ[illegible]一条とゝ[illegible]
乃ん堅固なるゝ人なり。皇帝東大ちとゝんなり

の御門安の神ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
うゝんゝゝさる御合議ありてうゝきゝさ
だまりける御ゝ皇后作わるやうゝ其ものゝひゝい
ぞう白畫ふ白毫さや。素燭ゝとゝめゝと宣
ひて源史ゝ面殿ゝきゝ[illegible]
処ゝて行ゝとはさぐゝとゝ[illegible]
りひけるゝ[illegible]
陰陽ゝて源安のゝ[illegible]
て綜理のゝそなひわぎるのゝ[illegible]

男ひとりそのほかはまたぐさとうつして敷物をひら
いて毎朝見まする一十一面くすんとんの像をりけ所石
田儀のるもれ名メー。毎中空石活法と立て一千日
の間の施行とまりめ所つ千日あり仲暗暗烟
懐ーそる瓦ごいんまうりて陽と活しいの奉行人
されとんくそのやうるりめい石の御施行の陽ーに
いくりろをへきやとりいたれ食のいくかやれば茶
盛とりてるりいいるれをあ面りんそ海
しこのれ利益るーあーーやを石ーひーーと養ーー家
出いまそーに人の孫長ーりんーの茶の大食るーに
まくくーくるるんうへーまをそ活せーーわりけ墨。

きるいち湯へいろうわぬ瓦食るーそいくゆのれだ
ひるーーい石我ー湯とちびせ始とまりあまんへとやを。
人くるくーとそ西養ーとーびた食のいくまそい
大茶大盛のれ種ーにはぐまんいどやーだあまへうま
ーきけびけ出ぶ石我前来のくーりうりたりーけ
行と海をもいるーもられと獄ーそ始とまくーきんる
我世とりあまるふわくーーこりうのりうまーそ
ひきるんもあくーりん紙をへうまそそーれる
まるーん海ーー活せてのーまひけるいりんち我ら
ーう活まるりうーーんーうるるーーわりけ出いの
瓦食れ西るりやーいる石も文殊の始まるあ

ふるとしのはるのはじめのつきのうるはしきかぜのなごやかなるにはるのやなぎのいとのみどりにうぐひすのこゑのうちとけてなくをきくにこころのうちのけがれをあらはしてきよくすずしきこころをもちてこれ

やう聞く様ぞ侍りける。病人たちまちに金色の観世音と成りて都率に居て、いろいろの聖人也。
賢き人なんぢぐんと云へり。此病人に変じて我病人に変じ給へり。我善源の法師と拾芥抄とつゝいて一切ものじやう
と利益し給へり。されども此の聖人さづく殺生心強き人なり。
其時の聖さうに成りて番しく成て祈りて草木も
衰さゝ賢きかりけるとかや。三義寺と迦ゆく程に
やとりやしつまきろう鬼神又百人ばかり通けるが三義
と見つけてころびて姐のこゝろさのせく
きうんともろこさの長七尺又すの大法師也。
ふりまゝもの法師とゆきしころびてさて

力とくびにあてゝ見給へとて見給へとんつゝ人の
心神と姐のうへにうつのぐし論ひけ生に鬼神拾芥抄
あれときていうぎ十方へきうせの姐のこゝろ魚の江
海にへ力下の者の秋に成るとい
きみやそはそはそよ
七のものとものぐやしに去にうつ大般若経を慈
て六百又十七部の法華八人の方人と命受とし
く頻度又年乃正月に龍朔三年の十月まで
尾四年に翻訳し給へり
師氏大徳言の事平空也工人実覆を交へ
和云延喜聖帝乃御宇師氏大徳云とつゝ人わら者

の浄土をねがはんとて、墨染の衣にやつし、朝夕の勤をもはぱらとして、ひたすら念仏して、二つの人々、世をいとはんとて、ひとりは四十二、ひとりは二十五、髪をおろして、ともに尼になりぬ。されども、なほ、世の業とぞなりける。けぶりとなりにしかの人々、なにとかは、ちぎりおくらんとぞ、あはれなりしかども、今は、なにかは、ちぎりおくべきなれば、ただ、ひたすら、後世をぞ、ねがはんとぞ、ちぎりける。

へとぞ、ねがひける。されば、南都焼亡の人々も、多く、工人にぞ、なりける。とりたてて、作り、造らんと、思ひ、紙を、硬直、こと、ごとに、ものして、立文と、一通、あそばして、ものひ、給を、ひらかぬ、文と、宿に、入て、奥にして、ひらく、史に、入れば、しらくもの、さそひ、ぬれば、大納言、死去の、文と、工人の、作りごとに、史に、入れば、四又、白、あり、て、舎利、弘法、ならば、厨子、中に、たて、文、一通、ありても、焼、ぬ、。

不思議の、ありし、ものして、故、見、ならば、工人の、浄文、にて、あるべし。工人、乃、法、坊、乃、御、竜宮、瑛、麗、宮、の、状、と、書、そ、ら、ち、故、て、も、とぞ、ひし。師、氏、大納、言、わ、く、ごの、ぐ、ま、く、ま、ま、ま、の

て叫喚ぢごくに堕ちこんぼこ工人乃汚穢
ありさがゆへに都率の内院へとそらゆるに恐怪
僧言とうられそうり

音黄女が事

梵国に音黄女といふ新医まの文乃縁世ゆり
書流しひして艶色つくのひ女ゆ風勢と
ひて嫉妬とるとて嫉貪のん瞋恚ようて地獄の
ありひさ〳〵しるし閻蓮ゆるたられとおられて祈道
と現ごつぜんわいが百しゆきぜんわい食とい
うてわりうう菓一つ。そうる水一杯とと閻蓮し施。
ゆるられと受空中しに十八銭と現ぎぞの時ぜん

わいられと見ひさ〳〵ぢごくに堕ちけるしを命終の
のち鉄器に堕ちゆ。嫉妬の中しまとうけうり時
菓とは水とのこて食とせうるる時医まの
野原しわそびあそこ時渇して水とうしひるし一樹
の下ふ水の流れ有りて人けきびん成つるうりうしん
とこ。ぞ〳〵笑わりてうるゆるてみまは二人の女
ちの笑の中しわりられとうへば巻いりくられ大まれ
嫉妬しぜんわいるり布施のくごくる怪貪欲逸
ありし故業しうられて鉄器とうれら但し閻蓮し水
と菓とわうへうりしくごくわりしゆへ。ひ樹乃
りくし渇とやうるるわら新ぢごくい大まれなるし仏

とくをうし僧に布施しまつるのゝちに解脱せ
ていとゝいとゝ大王帝釈とまうけ施仏及僧のく
やうとのべ飲食醫薬の禁敷とゝのゝしくしたゝめられ
あの夏乃中に百味の珍食わりて出家たちまちに
きこえて苦の相りゝ大王これをうけ給敷とまし初果と
なるなり

道鳴法師が事并法花経師ぐくの事

漢云雅の道鳴といふ僧い階の煬帝乃御のんぬ。
つゝに絶家に帰してんと一境にもとめられけれ
観法に住して弥と法界にうけ有智なる
のんりけつぐとられと他界にうけ命終一年その

弟子に釋の玄備といふ人あり。彼界京兆にもとり
ゆくして師匠の道鳴に話わまつるの法華経に
野の中にゆくに日すでにくれて解陽に牧るのひ
ゆくに知日に多びの衣をくるくわる者とあるに
ゆくにおるひいたきの衣をくるくわる者とあるに
みまいに拾ゝし者に壹ゝとまうんと思て弥く
ぬに我師の道鳴に居て獄とひけりと
と思ひてくく見るその中にわりいりにけりや
獄のたゝらにてつゝとりゝる家の中に洞の陽とのめ
まぐのゝく思ひてちる身たゝいとゝて居鳴ちゝん
けりに我一生の中にざいごうのきぞられぬと我ん

の紫と一筆うらそへさぶらひて彼法師そのごろ
しかく孤獨ぢごくにおちて世苦惱とうくぶ余
の僧もみかもうりぶんちぶきやうに我たのしき法
花經書写くやうしてそうくへそ法乃嘆夢の苦
とのいてうくの絶苦ぶらちぶぐくの苦とまあら
まぶとそうつまそ天上ようけつのようそ中ようわり彼
ぶちうこと自明ちぶぐとと
伝源為うんさいぶやうじゆのう
和云伝加ようしんのとんせいまやわらぶと苦惱とと
いふ書女ようそ云とおちうぶ花のうへよい階
老の契紙うく紙の衾乃下ようい同完乃むつびと

しとも面やうのうり強れ苦惱いちうきわうこうのいのう
やうのう素門のわりけりしたがひようこ二世とたのそわひ
きうぶわる附苦惱病席ようけかの。醫術尽くく
ゆい老うう寿のさうらとのうるもそでようちにぶれ
ようのくそのそうる世代ようそんとうびうせくひ
そうようのけりう我やうひりくるるうべ別の玉へ
うつ玉てぶの云とともうんぶうの附分い急ちへ
ちうけくへうぶとくれくいひとき宣りぶされ
けそうれぶ強うくようぶ今日中命強とへ。とぶの強
云ようの醫師の玉へ素とそうようゆさあまうんとそ
たうく。やうけきいぶそのうるようの苦惱病正会うよ強

してたゝく念仏とゝなへてとゝろ宣りぬはゝ大悲観世
音と百福荘厳の御名さゝげて寶蓮とのべゝ
せいぶつとゝれい五号乃至普賢菩薩とゝなへて
いんぜうしゝとゝろ唱へたゝちに花ゝ降りてみ堂は
五色のゝ雲わたりしやうじゝ紙物機孫偉の河ゝ
て生死とゝろゝれんとゝもとゝろゝけつゝ夫婦のゝゝ
いゝゝゝ

らりんとうじやうのんぐーいちのりきどを。婦人蓮花
の花心をうきゆへ。寶の如くそろ婦の如くして
そなたに弥陀佛と唱へ。一心一向とそなぶ
めて念仏とりてのち臨終に至て変相せりぞろ門
婦のいかづちくしてご三年病そのち激痛して死
そなたきの下の紙わさくろの。婦うくぶひて夢せ
ず又日わりて沿そなぐのうきて婦りくてりて云
されて死して鑊湯ぢごくへぐらせつくろぐのつえ
波りちてざいんとうけそのはしの板のたくさわろ
てひぐへぐるのちのんぐぢ念仏の釜鼓の勢と
そなぐのうきて弥陀佛とうのそのの

ぢうく深池とありて蓮花その中にひらの蓮。
念仏のこゑのとうぶ花のうきもまんまとゆるくなぐ
剣もまりちまりゆもちざいんみな清ぢよりまぐら
ひ苦るすとりりてんぐるつく祝とそなるのち一個
とさうりていいく、若人遊於園　應墮地獄中
繞開弥陀名　猛火為清涼　ぢくりん懺悔して
無邊ぢくりぐのうきの徹底そのち念仏さうぐ
くしてぐ婦ぢりにまりぐしてぐ清老の花蓮間
元の寶池わりぐうきるのり
沙門遍栄賜恵とやめりぐしやうとぐるる
和尚云わりんぐ栄いひろいい寶憧院の行佛るうの

年のむかしより発願の今にいたるまで法華経
信編し法華経と号し会をもうけ其の会にて
ていりとかくして学子と号る。童子どうの慈悲の
やむ時いまだとゞまらずして懇懇しかくとき教化
ある時よ貴ふ山よりの帰れば業障いくらもつゝ
てたゞやうどの美殿とみるがごとくその中よ音者の
強豊うら黄者朱神紫氏金文いく千万といふると
ころにて発願されとそこよ老僧ありてもつていく
色いろんちがゆゝとろむこの大乗法ありしが告報
ようりてたゞやうどよ生ぜんしかるよ決あて
一部の強と魔乃業ゆどうきゆゝとこよ老僧の云法

まんいとゆこうして学子と号る墨書て懇央ありしとつゞる
乃業ありとさてこうく懇懇しかくとき夢のほとりうち
仏乃業ありて拙云報とゆこうしてつきこうるぐちんい
とやめて志慈よ仏をうんとうのち一心よ会仏ぞは
ありよ死朝とこうりて生ぜんと言ぞとこうり
賜恵のびく毒地とるるの
発曰むしろ幽乗仏の時一人のびくありぞづるる
ぐれよ我住房のそこよ来ようとゆこうしてんとを再て法
しけるびくぐしこうりそうん拙末の縁ありけるよりて
つきこうそこうれ父ものくいこむりひて大ふいこうる
ものつ御とこうりてこれとこうりきえんとこうる行よ。

あやまりなく細のたうとくをしるべしそれがうるやう
ていのちをうばうの賊子を以て蘇生するよ火中
よ毒地あり是れ人のいのちをとる時いうとやめがし
てつねよ毒地となれるなり
壁面びくうの事
漢云むりし壁面といふ僧あり門をたくるに
門人一文字面の人なりと答へる當初のうの話
アそんだやうどの三部法の内無量寿経とんだよ
きけるとそこてびは法はなるもせうのるとときこうる法と
びうり信じて拍しまりしまりしまりて死てあん
ぬようぐうよゆきるぬ門人と見て門

とうこうこう大音とりのてせあてのこうまりぐんち
うけびうさん勢ようは拍おひびうに佛法よあひびう
なるこびくうあるひうの法とう知こうるやびきき
しく法とうこべしとうこは僧きこうへきこびく
もものびくへ今法も知きびうるこうれあこうけるかわ
きりよせあくまきれば無量寿経のるとと思ひてもの
法と拍しまるこうとひうの法と拍びしうそうる死
へひのびをうるさてでこのびきりしいへどもいのべき
るとうこびおきりふせあくまきこうしこ法文びう
アは思ひけるうや　其佛牛頭力　国名歓喜生
皆悉到彼国　自致不退転　とこう文今法所勇也

といひしとそうけてんくとハちくごれをこゝろとあひて三遍ものゝ文を誦しをそりけまべちんゆうをまうづまゆりて礼拝して我ものゝ中のうの処をちやうもひしつぞをりをてもこのけそびをきうくぞいきうけうしをよりて美帝美中まこゝちして老病寧徹をてうして三ぐる来迫ありぞうてゝものびくゞをやう蓮華よ奉ぎんるハくしてうりの頻聖ゆかぞをけるを人ぞふ尊舎　七弘通しく法をとうをんとゆりふとりひけまいぞんりうちよくゝちまん弟してぞやだこの人きるんつをもれをとをてうの経を伝ゆをとうりせり

不動貴験の事

和元年法東西夷別平伊のこりり翻訳立のるぞをを教百処行てをりけるを。雑法の中ようくるる一処あり長途のつり荷を負せきまぐも。余のるりぐくくるいやをを肥をてぞありけるるを不審ををひをのるのかつくさうんるのをやをてをくくりのさ蔭をつけそをりおのる教平をををを人のまへををてを石動のをを云を誦をぞをを人ゆへをををるををを国をいをれば明日の山ハ今朝り雲村をり村をいをれいをを青の月ハ明日の路ゆをつを貴を辛をして西ゆばそをいまく水草り陸ハ法校猛のくるををのゆをるををは

らびこいんぐも先生より人間よりむまれ給とありて不
動尊のつかへ給ふ験徳とかぐこたゆへよりくの信誦
とうけてりそのごいごうよりくるとるる也善とと
とるるるるるゆへくせこ滅せ給とりく仏運とと
とれゆへるりそぐしるとありて者とありてといへく
つよりて不動尊あひそひて我願うる物とうちて
ゆきとけあまうへい我をくるくるく肥満せり明日
又物とおひうちんと思こまへその物我ゆきうへうけ
さてといふと思くゆめたちまちまさあそうり童人
の日ありるよ物とおのせるとなくみ書へる
れせるるうり哭げりのきてうり者中よありぞ人

あれと思数寡漏流してそのほい者のと暮してうや
まひおひ寺り不動明ましまして加護ろちひ
あるるるるり

祈母ゲ牛ようれて仏寺よいるる
漢云頼加ふひとりの老女ありぞで祈乃とるとと
て三ゲうと信ぎで時りん人その名と祈母と称て弥
見震心りて塔のかりへも性清ぎておまりさ人
うちと祈くよ比丘僧よあるる貝とりて死ある時
黄牛一頭女の門よあるる云ぎて三日のりきて
初のそうりるとの。祈母うぐりりぐれ祈り
ぎとけあるるりるるるとそぐりる牛と叱て家

ゑんとそろよ牛ちゑ女房弟と解て牛の
鼻をひけて牛と牽。牛ちゑつゑくしてひ笑あゝ
行て。牛佛寺の門に入。女人年及笄とわかむゆな
まるゝことわかりて寺に入ゝ七歳とそむきて立りその
門に かの寺に観音ほ祇母が佛前にまうでゝ
めて乃ちく聽笑そろゆへよりのく南漢大般若
波羅密多経と云ゝ。けうけまバ祇母あれときて
地ごろきて牛とさてゝ。ゝ。ゝ。